文部科学省等支援プログラム

平成23～25年度

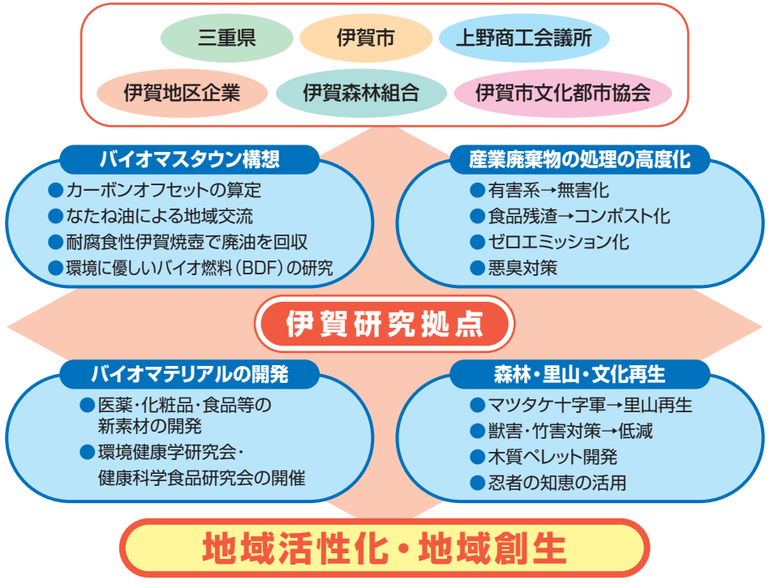
地域の特性を活かした循環型社会構築の高度化

「伊賀地域における三重大学伊賀研究拠点の新展開」

伊賀市に設置した研究拠点を中心に、伊賀市ならびに三重県と地域企業等と三重大学の産学官民による地域連携をもって、「環境・食・文化」に関する調査・研究、新商品開発研究等を軸とした新産業育成を図るとともに、伊賀バイオマスタウン構想を通して地域活性化と環境保全を実現します。

また、大学の研究領域の戦略的な活動により、伊賀の産業や豊かな環境・歴史・文化を育む文化的啓発活動を通した地域活性化、地域企業との連携による大学の研究領域拡大及び大学発信による高度人材輩出（学生の就職機会拡大）を実現する「伊賀地域循環型社会モデル（伊賀モデル）」を構築します。

◎ 地域の特性を活かした循環型社会「伊賀モデル」の構築 ◎



平成23～27年度

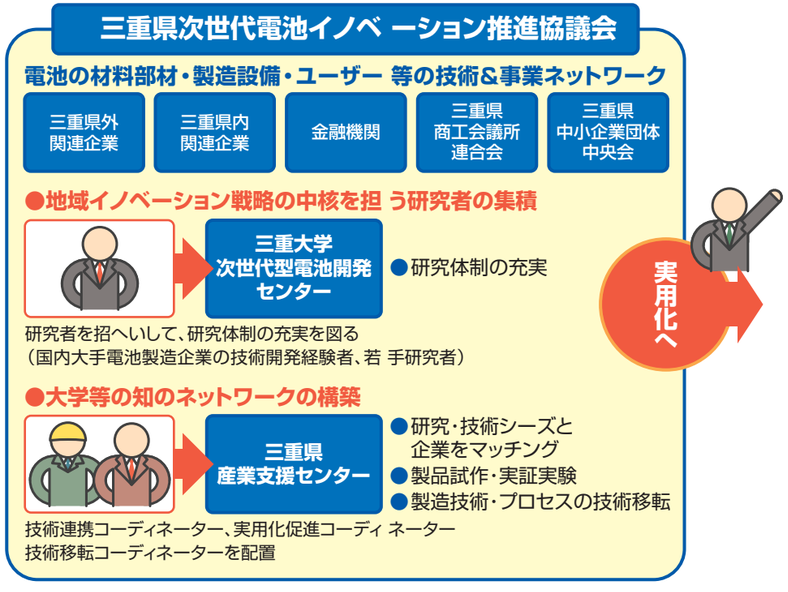
イノベーションシステム整 備事業
地域イノベーション戦略支 援プログラム

「三重エネルギー イノベーション創出地域」

これまでの研究開発で生み出された、発火・爆発等の恐れがない高い安全性、薄い・軽い・曲がるというフレキシブルな新規機能性を有する「全個体ポリマーリチウム二次電池」の実用化・事業化を加速し、この電池をコンセプトとした新産業の創出を目的とするものです。

「三重県次世代電池イノベーション推進協議会」を設置し、これまでに構築してきた電池開発に関する産学官連携体制をさらに強化することで、県内外を含めた次世代電池関連の新たな産業構造の確立を目指します。

◎ 産学官連携を強化し「次世代電池」関連の新たな産業構造の確立を推進 ◎



平成25～27年度

高度な専門職業人の育成や専門教育機能の充実

「大災害時の救命力向上のために救急医療臨床医学者を育成する医師卒後教育拠点『災害救急医療・高度教育研究センター』の構築」

三重県の緊急課題である大災害時における救急医療体制の整備の柱として、三重大学内に「災害救急医療・高度教育研究センター」を構築し、専門的なトレーニングを行い臨床医学者として災害救急医療を指揮・総括・改善できる医師の育成を目的としています。

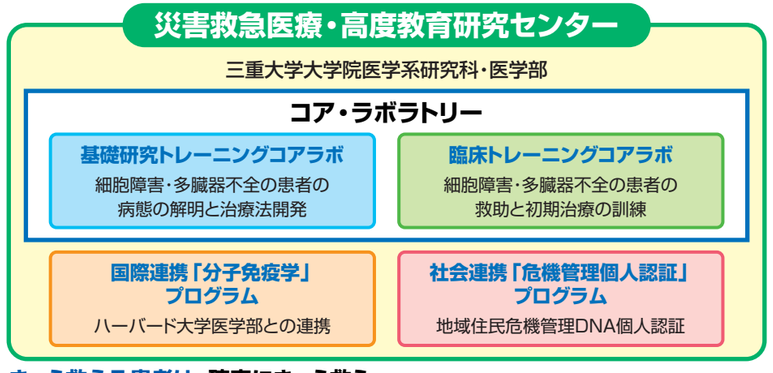
救急災害医学（今井 寛教授）と分子病態学（島岡 要教授）が中心となり三重大学医学部内に横断的な組織「災害救急医療・高度教育研究センター」を設置し、多臓器不全の病態解明のための基礎研究スキルを身に付ける医師卒後教育・トレーニングを提供します。

センターは臨床・基礎の2つのコア・ラボラトリー及びハーバード大学医学部との国際連携プログラム、危機管理対策や災害時の住民個人認証に関する社会連携プログラムの合計4つのトレーニングユニットで構成されます。

救急集中治療の初期トレーニングを終えた医師が3年の期間中、コアラボと連携プログラムをローテーションし、「大災害時に救急医療チームを指揮できる臨床医学者」に必要な知識・スキル・人的ネットワーク・コミュニケーション能力を身に付けます。

3年後のプロジェクト終了時には、第1期生を輩出できます。

◎ 災害・救急医学を専門とする優れた臨床医学者を育成 ◎



きょう救える患者は、確実にきょう救う。
きょう救えない患者は、あすには救えるように新しい治療法を救急医が研究する。